

埼臨技 だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

第48回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開催日：令和2年12月6日（日）

会場：大宮ソニックシティ

テーマ：躍動

サブテーマ：～『技』と『業』の融合～



第48回埼玉県医学検査学会
事務局長 猪浦 一人

第48回埼玉県医学検査学会で事務局長を務めさせていただきます、埼玉県済生会栗橋病院の猪浦一人と申します。

2月7日に4回目の実行委員会が行われ、少しずつ学会の形が見えてきました。学術企画、運営においても、若い部長を中心に活発な部会が行われ、今までにない提案が実行委員会に挙げられております。詳細については埼臨技だよりで報告していきたいと思います。

事務局としても若い実行委員の斬新な攻めの提案に翻弄されないよう、何とかしがみつき会務を遂行していきたいと思います。

会員の皆様におかれましても参加、発表とご協力をいただき、参加された一人一人の心に残る学会になればと、学会担当の菊池裕子理事（上尾中央総合病院）とタイアップし、学会実行委員18名で知恵を絞り合っております。今後もこの記事にご注目ください。



各研究班の研修会報告を致します。

テーマ アレルギー検査の最新情報について学びましょう アレルギー検査の新しい知見（コンポーネント）

主催 血清検査研究班

実施日時：令和元年11月27日 19時00分～20時00分

会 場：大宮ソニックスティ 905号室 点数：専門教科－20点

講 師：田中 昭（サーモフィッシュシャーダイアグノスティックス株式会社 東日本営業部）

参加人数：会員33名

出席した研究班班員：庄司和春 中別府奈穂子 天野直樹 岩崎篤史 田中亜紀 多川裕介

研修内容・感想など

今回の研修会は講師に田中氏を迎えて「アレルギー検査の最新情報について学びましょう」というテーマで開催した。

アレルギーの診断は、主に問診、特異的IgE抗体検査、食物経口負荷試験が行われている。特異的IgE抗体検査は、検査結果と年齢を用い、アレルギー症状誘発の可能性をプロバビリティカーブから求めることができる。誘発する確率が95%以上となる特異的IgE抗体値をディシジョンポイントという。ディシジョンポイントは食物経口負荷試験を行わなくても食物アレルギーと診断できる特異的IgE抗体値のカットオフ値であり、これらを用いることでリスクの高い食物経口負荷試験を行わずに食物アレルギーの診断が可能である。

特異的IgE抗体検査に用いられるアレルゲンは、原料から抽出された粗抗原である。粗抗原中に含まれるアレルゲン活性をもった成分をアレルゲンコンポーネントという。アレルゲンコンポーネントは主要アレルゲン、マイナーアレルゲンがある。主要アレルゲンは、その食物に対し特異的なものが多く、マイナーアレルゲンは含有量が少なく交差性を示す場合が多い。

ピーナッツアレルギーにおいて、従来の特異的IgE抗体検査は、感度は高いものの特異度が低かったが、アレルゲンコンポーネント（Ara h 2）を用いた特異的IgE抗体検査を行うことで特異度が大きく向上し、ピーナッツアレルギーの診断に有用である。

その他のアレルギーにおいてもアレルゲンコンポーネントは診断の補助等に使用されている。

今回の研修会でアレルギーに関する基礎から最新の知見を得ることができ、大変有意義な研修会となった。

(文責：多川裕介)

テーマ 匠に聞く 日常輸血検査のポイント～具体的な事例を交えて～

主催 輸血検査研究班

実施日時：令和2年1月17日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックスティ 602号室 点数：基礎教科－20点

講 師：古坊 孝志（オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社 顧問）

参加人数：会員66名 賛助会員1名

出席した研究班班員：山田攻 長谷川卓也 久保居由紀子 野呂光恵 小原佑太 宮澤翔子

研修内容・感想など

長年学術を担当されていた古坊氏に血液型不規則抗体の症例2例を中心に輸血検査のポイントについて解説してもらった。解説と同時に古坊氏が病院で勤務していた当時の臨床検査現場の話があり、大きな衝撃であるとともに大変興味深かった。

現在の臨床検査の現場は各検査項目の自動化が進み、臨床検査技師個人の技術力を求められることが減少してきたように思われる。その反面、異常反応や困難な症例での対応力・迅速力が問われるようになってきている。そのためにも、検査の基礎や原理を再確認し、知識や技術を高めていくことが求められているのではないだろうか。

今回の研修会にて血液型結果で異常反応が出現した場合、どのように考え、追加検査を進めていくのか分かりやすい内容だった。『匠ではなく、異常反応に対して一つずつ原因を考察

し、それぞれの検査を行っていくだけ』という言葉が輸血検査に長年携わってこられた匠からの重要なメッセージではないかと感じた。

輸血検査は治療の一部を担っているため、より一層の技術向上が不可欠であると実感できた。

(文責：宮澤翔子)

テーマ **HBV検査の注意点を学びましょう HBV感染症検査のピットフォール**

主催 血清検査研究班

実施日時：令和2年1月22日 19時00分～20時20分

会 場：大宮ソニックスティ 905号室 点数：専門教科－20点

講 師：江川 孝則（ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 ラボソリューション事業部
シニアアドバイザー）

参加人数：会員39名

出席した研究班班員：田中亜紀 天野直樹 岩崎篤史 庄司和春

研修内容の概要・感想など

今回は、江川氏による「HBV感染症検査のピットフォール」という講演であった。

まず、HBVマーカーにはHBs抗原、HBs抗体、HBc抗体、IgM-HBc抗体、HBe抗原、HBe抗体、Hbコア関連抗原、HBV-DNA、HBV遺伝子変異、HBV遺伝子型などの項目があり、それぞれ臨床的意義について説明された。そして、HBVの感染には持続性感染（慢性肝炎：キャリア）と一過性感染（急性肝炎）があり、どちらの感染なのかにより治療が異なるため鑑別が重要で、各HBVマーカーの経過が異なるとのことであった。

次に各HBVマーカー結果におけるピットフォール（結果の解釈に悩む）事例について説明があつたが、そのうちのいくつかを紹介する。各種抗原項目が陽性なのにHBV-DNAが陰性の場合は核酸アナログ製剤治療によりHBV-DNAが陰性化したケースが考えられる。HBs抗原、HBs抗体共に陽性の場合は、異なるサブタイプのHBV重複感染やHBV変異による亜型の変換、または抗原・抗体試薬の高感度化によるケースが考えられる。HBs抗体、HBc抗体は陽性でHBeは抗原・抗体共に陰性の場合は、HBeのセロネガティブが考えられる。セロネガティブとはセロコンバージョンに至る前段階であり、抗原・抗体共に陰性の状態を指す。HBs抗原のみ陽性で他のマーカーが全て陰性の場合、HBワクチン接種後の採血が考えられる。他にも輸血用血液製剤には、各種抗体が含まれている製剤があり、新鮮凍結血漿や濃厚血小板製剤のHBe抗体陽性率は2.3%であったとの報告もある。これらを輸血した場合には陰性化するまでに数か月から數十ヶ月かかる場合もあるため、輸血歴がある場合は考慮が必要であるなど、事例の解説があつた。

結果の解釈以外のピットフォールとしては、B型肝炎の再活性化が挙げられた。de novo肝炎ともいい、近年問題となっているが、B型肝炎の既往症例に抗癌剤や免疫抑制剤を投与するとB型肝炎が再燃するというものである。また、HBVとHCVの重感染でDAA治療によりHCVを排除した場合にも、B型肝炎が再燃する場合があることがわかつてき。この原因として、HCV感染がHBVの増殖を抑制していたためと考えられている。予防としては、HBV-DNA量などでモニタリングし、上昇がみられた場合には核酸アナログを投与することであった。

今回は、HBV検査におけるいろいろなケースについて学んだ。結果が少し気になると思っても再検して同じだからいいだろうではなく、納得して結果を返したいものである。今回の研修会では多くの霧が晴れたように感じる内容であった。

(文責：庄司和春)

テーマ **酵素活性測定の変遷と今後**

～ ALP, LDのIFCC法への切り替えに向けて～

主催 臨床化学検査研究班研修会

実施日時：令和2年1月23日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックスティ 602号室 点数：専門教科－20点

講 師：小田垣 真一（富士フィルム和光純薬株式会社 東日本学術部）

参加人数：会員63名 賛助会員1名

出席した研究班班員：巖崎達矢 永井謙一 大出淳 安田達明 大谷真澄 三木隆治 藤本丈志
小林麻里子 北川裕太朗 羽田幸加

研修内容の概要・感想など

ALP、LDの測定方法が2020年4月1日より世界的に普及している測定方法に変更される。これにより日本国内の測定値は、各国の測定値と互換性を持つことになる。今回小田氏に、これまでの酵素活性測定の変遷と、今後測定法が切り替わるとどうなるかなど詳しく伺った。

酵素項目の標準化の流れは、まず単位の統一から始まり、基準となる測定法が制定（JSCC準拠試薬）された。続いて装置特性の補正（実測Kファクター）を経てERMを用いた血清酵素活性測定系が確立され標準化が実現した。

現在日本国内ではALP、LDともにJSCC標準化対応法を約99%の施設が採用し、標準化されている項目であるが、検査のグローバル化、国際ハーモナイゼーションを重視しIFCC法へ移行することとなった。

ALPにおいて、JSCC処方とIFCC処方の一番の大きな違いは試薬の緩衝液が変わることである。ALPで用いられる緩衝液は基質としても働くため、使用する種類が異なると得られる活性値が異なってくる。JSCC処方よりIFCC処方の測定値が約1/3程度低くなり、この挙動は緩衝液を基質とするALPの転移反応の速度の違いに起因している。

LDについては緩衝液を変更したことにより、pH8.8からpH9.4へとアルカリとなる。相関性は良好であるが、IFCC処方ではLD5の反応性が弱くなり、測定値差が生じる場合もある。アイソザイムの割合によってはJSCC処方で測定した値と乖離する検体もあるので注意が必要である。

また試薬メーカーの取り組みとして①IFCC処方試薬の準備、②自社コントロールにおける測定値の確認、③各種基礎データの確認、④各地域での勉強会の実施、⑤試薬検討の相談を受けており、事例を交えて紹介があった。

標準化対応法試薬の組成についても各メーカーで微妙に差異があり、反応速度が一定でなく、標準化されている試薬でも反応性が異なる場合がある。ときに濁りとして認められ、反応タイムコースの異常として検出されることもある。

検査室においても、学会やメーカーから上記のような症例報告があるため、M蛋白など気をつけるべき検体を認識し、測定に注意を払っている。

今後、IFCC処方の試薬でも未知の異常反応を示す検体が出現されると予測されるため、各施設で出た異常反応において、学会発表など報告が期待される。現段階では遭遇していない特殊事例を経験することもあり得るので、検討するよい機会であると考えられる。

最後にフロアから「ドライでのALP、LDの測定について変更があるのか」という質問があつた。これについて小田垣氏より、富士フィルム和光純薬株式会社では検討中であり、近いうちにアナウンスするということだったので、引き続きこちらの動向にも注目していただきたい。

(文責：小林麻里子)

テーマ ステップアップ心電図検査

主催 生理検査研究班

実施日時：令和2年1月25日 14時30分～17時00分

会 場：自治医科大学附属さいたま医療センター 南館2階講堂 点数：専門教科－20点

講 演 1：ホルター解析の現在

講 師：秋山 文美枝（日本光電工業株式会社）

講 演 2：虚血性心疾患と心電図

講 師：土田 順子（自治医科大学附属さいたま医療センター）

参加人数：会員86名 非会員1名

出席した研究班班員：早川勇樹 仲野浩 高梨淳子 田名見里恵 武藤由里子

研修内容の概要・感想など

今回はステップアップ心電図検査として、ホルター心電図と虚血性心疾患の心電図について研修会を行った。

講演1では、秋山氏による『ホルター解析の現在』の講演だった。まずは解析の際に悩むこ

とが多い心電図波形について、二択のクイズ方式で、かなり正答率が高かった様に感じられた。次に、解析のテクニックとして、解析機器でも振り分けが困難な洞調律と補充収縮の分類法として、重ね表示の中からP波の有無に着目し区別すると、簡単に振り分けできるとのことだった。

最後に、解析する際のアドバイスがあった。解析で悩んだ時には、依頼医にその波形を注目してもらえるよう重症度の高い方に分類することが肝要であり、また解析を行いやすくするには、ノイズを少なく、心電図波形を大きくすることが秘訣であり、そのためには的確な前処置を行いモニターで確認しながら、適切な部位に電極を貼る必要があるとのことだった。

講演2では、土田氏による『虚血性心疾患と心電図』についての講演だった。最初に、虚血性心疾患を理解する上で必要な冠動脈の走行と支配領域について説明があり、続いて、ST上昇や下降の定義からそのメカニズムについての解説があった。

この順番での説明により、冠動脈は心外膜側から心筋に栄養が供給されているため、STが上昇するということは、心外膜側から虚血（心筋梗塞）に陥り、危険な状態であるということが、理解しやすかった。また、そのST上昇も、右脚や左脚ブロックがあると判定が難しくなるが、その鑑別方法についてもわかりやすくまとめられた。

最後に症例を提示しながら、どのような箇所に注意をしながら心電図を判読すべきか、また、その様な状況に遭遇した際にはどのように対応すべきか、丁寧に説明された。

今回の研修会はいずれの講演も多くの症例が提示された。わかりやすい解説のお陰で心電図波形への理解がより一層深まり、悩んでいた症例判読の一助となる研修会であった。

（文責：早川勇樹）

テーマ 婦人科系腫瘍マーカーについて学びましょう

婦人科系腫瘍マーカーの詳細

主催 血清検査研究班

実施日時：令和2年2月20日 19時00分～20時20分

会場：大宮ソニックスティ 905号室 点数：専門教科－20点

講師：村上 聰（アボットジャパン合同会社学術情報室）

参加人数：会員24名

出席した研究班班員：庄司和春 岩崎篤史 天野直樹 田中亜紀 中別府奈穂子

研修内容の概要・感想など

今回は村上氏より、婦人科系腫瘍マーカーについて、がんの基礎知識に始まり、腫瘍マーカーの概念、婦人科系腫瘍における腫瘍マーカーの特徴について幅広くお話をあった。

がんの死亡率年次推移、多様性について、さらにはがん遺伝子パネルとがんゲノム医療の実際についての内容で、大変興味深い内容であった。腫瘍マーカーの課題として感度や臓器特異性などの問題が存在し、数値の上昇はがんの進展に比例することが多く、早期発見のためというよりも診断する上での補助的な検査、あるいは治療していく上での経過観察の意味合いが強くなっている。

CA125の卵巣癌診断性能において早期癌における値の上昇は、50-60%であり、腫瘍以外の良性疾患でも上昇する可能性がある。ヒト精巣上皮タンパク4（HE4）は、上皮性卵巣悪性腫瘍における感度が良く、CA125に比べ婦人科良性疾患や妊娠で上昇することが少ない。

CA125とHE4の両マーカーを用いた、卵巣悪性腫瘍推定値（ROMA）が指標として開発されたことにより、CA125とHE4の組み合わせ、またはROMAを用いることで卵巣癌の診断性能の向上が期待される。

今回の講習会は、腫瘍マーカーをはじめとして、がんについて幅広く話を聞くことができ、非常に興味深く有意義な内容であった。

（文責：中別府奈穂子）

**令和元年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第11回 理事会議事録**

日 時：令和2年2月13日(木) 19時00分より
場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：I. 行動報告 II. 報告事項
III. 承認事項 IV. 議題

出 席：(理事)神山 矢作 小山 濱本 奈良
小島 菊池 長澤 濱田 笹野
石井 神戸 山口 猪浦 阿部
久保田

(監事)遠藤

欠 席：(理事)岡田 松岡 長岡 神嶋 伊藤
鳥山
(監事)細谷

本日の理事会の出席者は17名であった。理事の出席者は16名で、現在数22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

I. 行動報告(令和2年1月9日～令和2年2月12日)

1月9日(木)令和元年度第10回理事会：

神山、岡田、矢作、松岡、小山、
濱本、奈良、長岡、小島、神嶋、
菊池、長澤、濱田、伊藤、笹野、
石井、神戸、山口、猪浦、鳥山、
阿部、遠藤

1月10日(金)第48回埼玉県医学検査学会 第3回実行委員会：

菊池、石井、猪浦、伊藤

1月10日(金)令和2年賀詞交歓会各賞受賞記念祝賀会：

神山、岡田、矢作、松岡、小山、
濱本、奈良、長岡、小島、神嶋、
菊池、長澤、濱田、伊藤、笹野、
石井、神戸、山口、猪浦、鳥山、
阿部、久保田、遠藤

1月10日(金)日臨技政策推進WG会議：神山

1月10日(金)日臨技表彰審査委員会：神山

1月11日(土)令和2年公益社団法人埼玉県看護協会新年談話会：矢作

1月11日(土)日臨技臨床化学免疫認定審議会：

神山

1月17日(金)第47回埼玉県医学検査学会 第15回実行委員会：奈良、菊池

1月18日(土)・19日(日)第7回山梨臨床検査フォーラム：矢作、神戸

1月19日(日)関甲信支部病理研修会：神山

1月22日(水)さいたま市精度管理委員会：神山

1月24日(金)今後の埼臨技の展望について：
岡田、松岡、小山、濱田、伊藤、
石井

1月24日(金)だより489号編集会議

(メール会議)：

奈良、長岡、小島、神嶋、菊池

1月24日(金)日臨技理事会：神山

1月24日(金)日臨技賀詞交換会：神山

1月25日(土)日臨技全国支部幹事会：神山

1月25日(土)日臨技共済制度検討委員会：神山

2月1日(土)埼玉県医師会新春の集い：
岡田、松岡、濱本、山口

2月1日(土)大阪府臨床検査技師会医学検査学会：神山

2月5日(水)女性企画研修委員会会議

(メール会議)：

小島、伊藤、神嶋、石井、菊池、
濱田

2月7日(金)第48回埼玉県医学検査学会
第4回実行委員会：

菊池、石井、猪浦、伊藤

2月7日(金)日臨技認定センター協議会：神山

2月8日(土)2019年度関甲信支部・首都圏支部人材育成研修会：
神山、矢作、石井、神戸

2月9日(日)令和元年度第3回一都八県会長会議：神山、矢作

2月9日(日)日臨技関甲信支部幹事会：神山

2月11日(火)ひとり親世帯の資格取得セミナー：
神山、松岡

II. 報告事項

1 事務局

1) 東武医学技術専門学校より2019年度第47回卒業式の臨席依頼が届いた。神山会長を派遣することとした。

日時：令和2年3月8日(日) 11:00～

会場：市民会館いわつき

2) 1月11日(土)令和2年公益社団法人埼玉県看護協会新年談話会に矢作副会長が出席した。

- 3) 1月18日(土)・19日(日)第7回山梨臨床検査フォーラムに矢作副会長、神戸理事が出席した。
- 4) 公益財団法人結核予防会結核研究所より令和元年度～世界結核デー記念～結核対策推進セミナーの案内が届いた。
- 5) 1月24日(金)今後の埼臨技の展望について、会議を行った。
- 6) 日臨技より伊達忠一氏の叙勲を祝う会の臨席依頼が届いた。神山会長を派遣することとした。
- 日時：令和2年3月26日(木) 18:00～
会場：ホテルニューオータニ
- 7) 2月1日(土)埼玉県医師会新春の集いがあり岡田副会長、松岡副会長、濱本事務局次長、山口常務理事が出席した。
- 8) 2月1日(土)に大阪府臨床検査技師会医学検査学会が生物試料分析科学会年次学術集会と共に開催されたため、神山会長が参加した。
- 9) 2月8日(土)2019年度関甲信支部・首都圏支部人材育成研修会に神山会長、矢作副会長、石井理事、神戸理事が出席した。
- 10) 2月9日(日)令和元年度第3回一都八県会長会議に神山会長、矢作副会長が出席した。
- 11) 日臨技より令和元年度各賞受賞者決定の報告があった。
- 12) 日臨技より新型コロナウイルス感染症の情報提供があった。
- 13) 文京学院大学より学位記授与式の臨席依頼が届いた。
日時：令和2年3月14日(土) 10:00～
会場：文京学院大学 ふじみ野キャンパス東館アトリウム
- 14) 埼玉県立大学より卒業式・大学院修了式の臨席依頼が届いた。岡田副会長を派遣することとした。
日時：令和2年3月13日(金) 10:00～
会場：埼玉県立大学 講堂
- 15) 2月11日(火)に埼玉県母子寡婦福祉連合会より、一人親(女性)の就職に関する後援依頼を受け、神山会長、ならびに会員二名で臨床検査技師の資格・業務について講演した。
- 2 総務部**
- 1) 1月24日(金)埼臨技だより 第489号編集会議(メール会議)を行った。
- 2) 「埼臨技だより」第489号2月15日発行予定
- 3) 2月5日(水)女性企画研修委員会会議(メー

ル会議)を開催した。

3 事業部

- 1) 1月10日(金)令和2年賀詞交歓会・各賞受賞記念祝賀会が開催された。

- 2) 令和2年臨床検査技師養成校連絡の開催について令和2年度は2回開催とする。

4 学術部

- 1) 生涯教育プログラム令和2年4月・5月分をだより2月号に同封予定。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

- 1) 令和元年度正会員費1名5,000円、入会金1名分1,000円 合計6,000円の入金があつた。

- 2) 株式会社石井印刷に埼臨技会誌Vol66-No.2 印刷代326,007円、埼臨技だより第488号印刷代197,802円、会誌発行に伴う仕分費24,244円、合計548,053円を支払った。

7 精度管理委員会

- 1) 令和元年度 埼玉県医師会臨床検査精度管理調査報告会を開催予定。

【臨床検査部門】

日時：令和2年3月26日(木)

15:00～17:00

会場：埼玉県県民健康センター 2階
大ホール

【細胞診部門】

日時：令和2年3月26日(木)

15:15～17:15

会場：埼玉県県民健康センター 1階
大会議室C

8 一都八県会長会議

- 1) 2月9日(日)令和元年度第3回一都八県会長会議が開催された。

9 日臨技関甲信支部

- 1) 2月9日(日)日臨技関甲信支部幹事会が開催された。

10 日臨技

特になし

11 第47回埼玉県医学検査学会

- 1) 1月17日(金)第47回埼玉県医学検査学会第15回実行委員会を開催した。

12 第48回埼玉県医学検査学会

- 1) 1月10日(金)第48回埼玉県医学検査学会第3回実行委員会を開催した。

- 2) 2月7日(金)第48回埼玉県医学検査学会第4回実行委員会を開催した。

III. 承認事項**1 事務局**

1) 会員動向(令和元年度分)

令和2年2月1日現在

会員数 3,165名 [平成30年度会員数3,027名]

(新入会員 294名)

賛助会員 81社 [平成30年度 82社]

承認された。

2 総務部

特になし

3 事業部

特になし

4 学術部

1) 令和2・3年度の埼臨技研究班員について

審議の結果、一部の研究班について班員の再調整をすることで条件付き承認とされた。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

7 精度管理委員会

特になし

8 第47回埼玉県医学検査学会

1) 第47回埼玉県医学検査学会収支決算につい

て

特になし

9 第48回埼玉県医学検査学会

特になし

IV. 議題**1 事務局**

特になし

2 総務部

特になし

3 事業部

特になし

4 学術部

特になし

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

『若いね！』

久しぶりに言われました。自分からは口が裂けても言えません。体のあちこち痛いし、こんな所にぶつかる？というところに平気でぶつかるし、人に年齢を伝えると微妙な空気が流れるし…が日常です。こんな私に『若いね！』というお言葉をいただいたのは、地域のソフトボールチームでの入団挨拶時でした。チームには60歳代は当たり前、70歳代・80歳代の方もいます。まあ確かに皆さんから見れば年齢は若いです。ですが、練習に参加し驚愕だったのは、先輩方の動きがそれこそ若いこと若いこと！日曜日は年末年始を除き年間を通して活動しているとのこと。「継続は力なり」ですね。

パワフルな仲間に刺激をもらって仕事にも活かしていくべきだと思っています。

(長岡 記)

